

IV . ジョブ・カード様式の弾力化、 これを踏まえた活用推進策等について

1. これまでの経緯

- 第5回ジョブ・カード制度推進会議(平成29年6月9日)において、ジョブ・カードの活用度をさらに高めていくために様式や活用方法等について弾力化を含めた見直しが必要であるとの(以前より提起されていた)ご意見を受けて、厚生労働省側から、「所要の見直しを検討していく」旨回答。
- これまで、厚生労働省(本省)は、労働局に対し、求職者や学生への活用促進策等について、2度にわたり意見聴取・照会(大学・専修学校へのヒアリングも依頼)。
- 平成29年度厚生労働省委託事業「ジョブ・カードの企業・学校における効果的活用方策の開発に係る調査研究事業」において、在職者、専修学校生への活用方策を、試行実施も含めて調査研究。
- 以上を踏まえ、文部科学省・経済産業省とも協議の上、今般、ジョブ・カードの見直し案を取りまとめ。

2-1. 求職者・大学での活用促進に向けた主な意見 (労働局・ハローワーク)

【求職者への活用について】

- 様式1-1(キャリア・プランシート)が最初であり、とっつきにくい印象を与えている。様式2、3-1、3-2を書いてから1-1を書くことをアドバイスする前に、ジョブ・カード作成を拒否される。
- 今の様式は、何をどう書いたらいいか分からないようになっている。記載しやすくなるような項目立て、表記上の工夫などが必要。
- 地方では(ソフトウェアやアプリではなく)手書きからスタートする人も多いので、手書き・下書きのための配慮が必要(記載欄を大きくできるようにする、罫線を入れてもよいように柔軟性を高める)。
- いきなりジョブ・カードに取りかかるのは心理的な負担が大きい。簡易版の様式や、ジョブ・カードに記入する内容を考えるための補助シートがあるとよい。
- 現在普及している応募様式に近づける工夫をすべき。
- 「性別」の欄は削除すべき。

【大学(学生)への活用について】

- 企業が応募様式として採用しなければ、学生が書くメリットがない。
- 既に独自のキャリア支援プログラムを行っており、ジョブ・カードに似た(殆ど同じ)様式のシートを書かせている。キャリアコンサルタントのサポートがないと書けないジョブ・カードをわざわざ書かせる意味が分からない。
- ジョブ・カードを書かせようとしても、様式1-2は、何をどう書けばいいかの説明が何もなく、学生は最初からつまづいてしまう。
- はじめからジョブ・カードに文章が書ける学生は殆どいない。キーワードを書き出すことから始めている。
- 入学直後の時期に「働く」ということを考えさせ、学習意欲を喚起するためにジョブ・カードを書かせるのは一定の効果がある。
- 就職活動(エントリーシートを書く)前に、自己分析ツールとして活用するのは意味がある。

2-2. 在職者・学生への活用に向けた主な意見(委託事業)

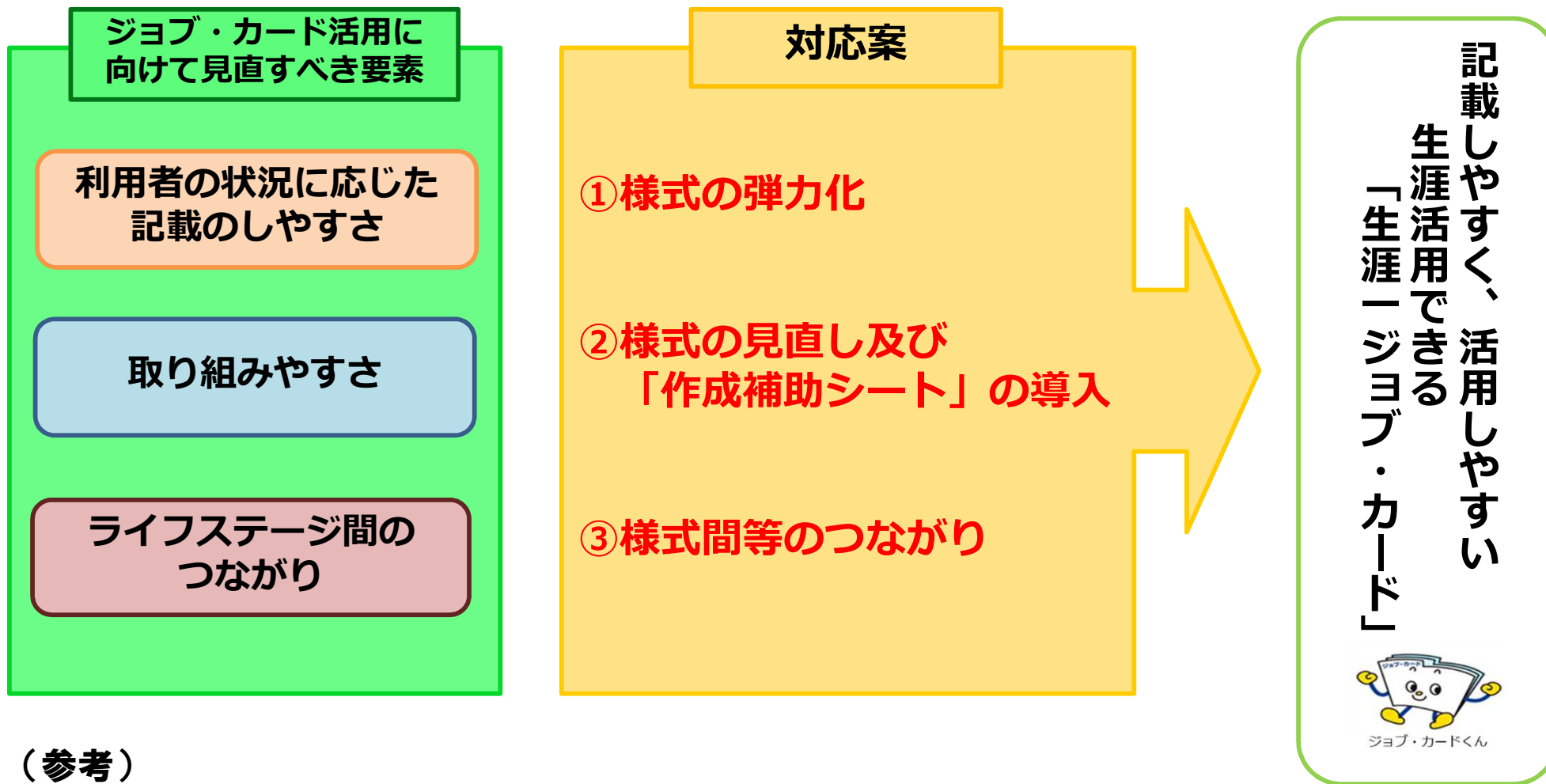
【在職者への活用について(企業及び従業員)】

- 社内で既にジョブ・カードと似たようなシートがあり、別途、ジョブ・カード作成する意味が感じられない。
- 企業によって状況は様々なので、各企業の実情に合ったシートを開発すべき。
- 一つの企業に様々な職種があるので、職種ごとにジョブ・カードをカスタマイズできるといい。
- 何をどう書けばいいのか指定されていない空欄にいきなり文章を書き込むのは難しい。選択肢を選ぶとか、設問に一つ一つ答えていく等のスタイルが取り組みやすい。
- 家庭と仕事との両立はキャリア・プランで必須の要素なのに、どこに書けばいいのか分からない。
- キャリアコンサルティングを受けたことは、キャリアを考える良い機会になった。
- 現行の様式1-1の「目標とする職業～について記入」は転職前提の記述であり、人手確保に苦労している企業からすれば拒否感がある。記入欄の説明は、利用者・組織に応じて変更できるようにすべき。

【専修学校(学生)への活用について(専修学校及び学生)】

- 既に各学校で作成・活用しているキャリア・シートと重複する部分が多い。ジョブ・カードと重複する部分は書かなくてもいいようにするか、ジョブ・カードの様式を各学校が加工できるようにして欲しい。
- いきなり文章を書くのは難しい。キーワードを選んで、少しずつ完成させていく方式が望ましい。
- 様式1-2の第3面の「仕事を通じて達成したい目標」は、学生には難しすぎる。
- 就職活動の採用面接で、何を話せばいいか整理できた。

3. ジョブ・カードの見直しに関する基本コンセプト



(参考)

○今後のスケジュール(案)

平成30年

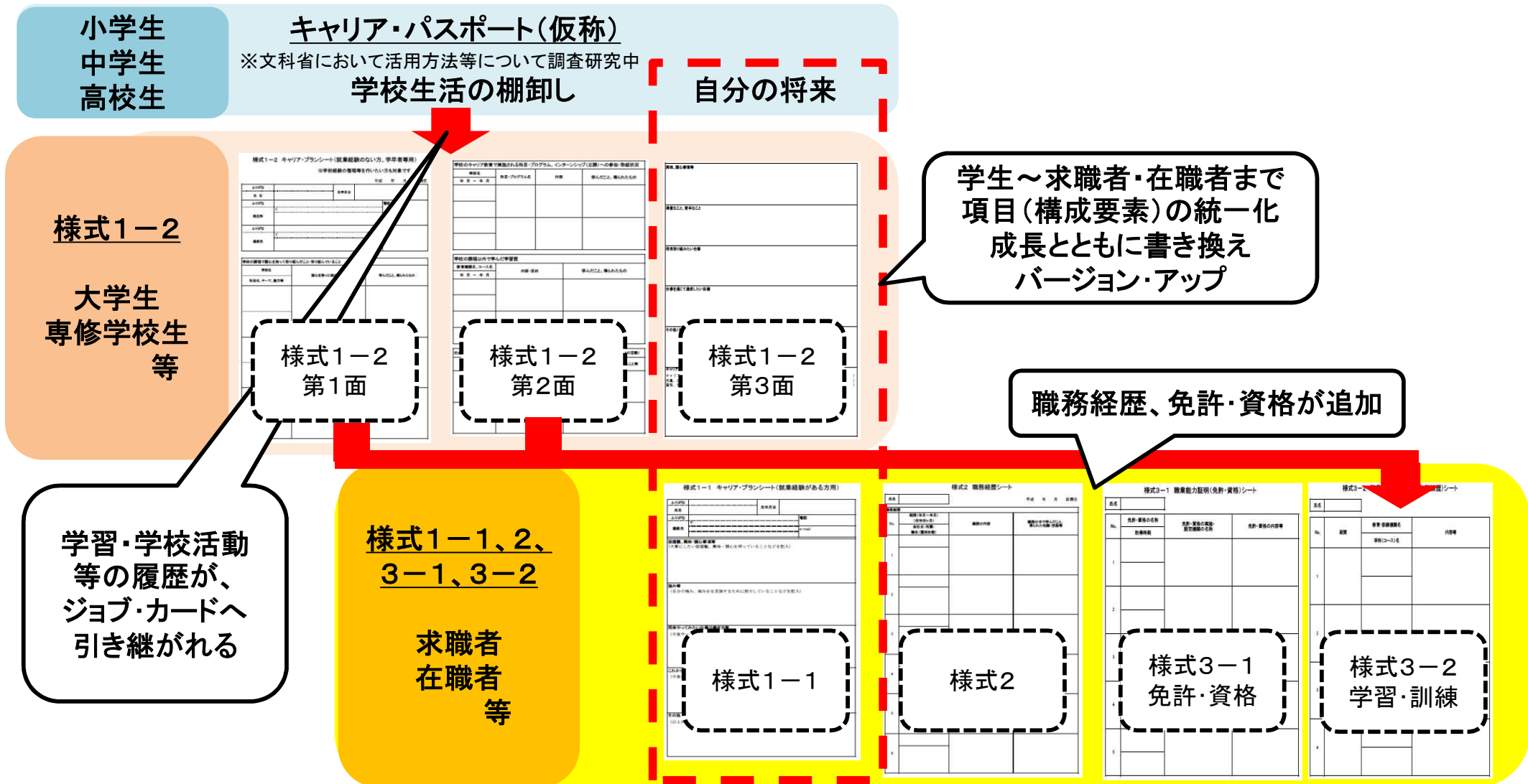
1月～3月 労働政策審議会に制度改正内容を諮問・答申
関係通達の整備

4月 施行

4-1. ジョブ・カードの見直し方針(案)

(1) 大臣告示レベルに関わる事項①

- ① 利用者の多くが記入しにくいと感じている様式1-1を見直し(要素ごとに欄を区分)。
- ② 文科省キャリア・パスポート(仮称)、様式1-2との「つながり」を作り「生涯-ジョブ・カード」の土台を整備。(様式1-2(第3面)の項目を、様式1-1(分節化後)の項目と統一化。「性別」欄を削除。)



4-2. ジョブ・カードの見直し方針(案)

(1) 大臣告示レベルに関わる事項②

③様式1-1~3-2に「弾力化できる旨」を注記として記載。

(イメージ)「必要があるときは、各欄を区分し、または各欄に所要の変更を加えることその他所要の調整を加えることができます。」

(活用の一例)

様式2 職務経歴シート

会社名
所属・職名
職務の内容
職務の中で学んだこと等

様式3-1 免許・資格シート

免許・資格名称
取得時期
認定機関
免許・資格の内容

様式3-2 学習・訓練歴シート

期間
教育・訓練機関名
学科(コース)名
内容

一枚にまとめて、キャリア
コンサルティングに活用

空欄等を削除・編集して、
そのまま応募書類に活用

キャリアカード標準様式
※ 応募書類として提出する場合は、別途提出される履歴ファイルと合わせて作成してください。

職務経歴書

氏名
生年月日
性別
連絡先
E-mail

職歴
職名
所属
職務の内容
職務の中で学んだこと等

免許・資格
免許・資格名称
取得時期
認定機関
免許・資格の内容

学習・訓練歴
期間
教育・訓練機関名
学科(コース)名
内容

職務経歴書

氏名
生年月日
性別
連絡先
E-mail

職歴
職名
所属
職務の内容
職務の中で学んだこと等

免許・資格
免許・資格名称
取得時期
認定機関
免許・資格の内容

学習・訓練歴
期間
教育・訓練機関名
学科(コース)名
内容

4-3. ジョブ・カードの見直し方針(案)

(2) 局長・統括官通達レベルの事項

① キャリア・プランシートを書きやすくするために、その記入内容を考える「作成補助シート」を新たに導入、普及・活用。
 ② 学生、在職者、求職者ごとに、それぞれが最も使いやすいシートを、各学校・企業等で編集することも可能。

(補助シートの一例:イメージ)

キャリア・プラン作成補助シート(学生用)

キャリア・プラン作成補助シート(在職者・求職者用)

様式1-1 キャリア・プランシート(就業経験がある方用)

<キーワード選択ワーク>
個性・キャラクターを振り返る
明るい、自立心、我慢強い、
社交的、柔軟、神経質、
のん気、大胆、凝り性、慎重
責任感、ユーモア、論理的
楽観的、負けず嫌い、など

<キャリア・アンカー>
仕事をする上で大事にしたい
「こだわり」を探索できる

1. 専門職志向
2. 管理職志向
3. マイペース志向
4. 安定雇用志向
5. 独立開業志向
6. 社会貢献・奉仕志向
7. 挑戦者(冒険家)志向
8. ワークライフバランス志向

<強み発見ワーク>
仕事上の武器になる「強み」等
を探索できる

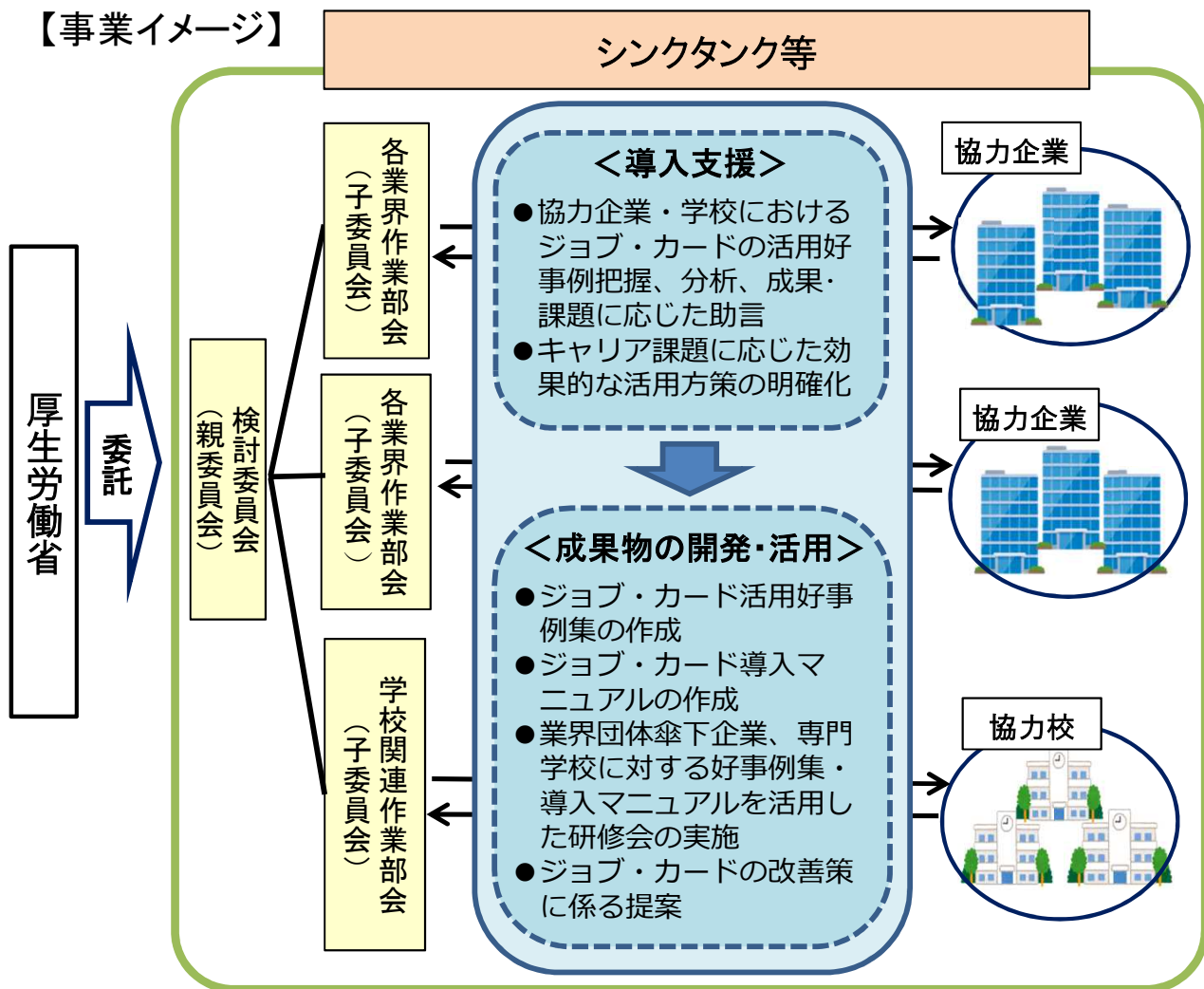
「手を抜かず真面目に対応する」
「必要な情報を集める」
「プレゼンの準備をしっかりとする」
「いざというときにはやる気を見せる」等

書く内容を整理するためのワーク

整理した内容を
キャリア・プラン
シートに記載

(参考) 5. ジョブ・カードの企業・学校における効果的活用方策の調査研究 (平成29年度事業)

- 公的・雇用型訓練受講者以外の労働者や学生を幅広く対象に、特に学校や企業におけるジョブ・カードの活用を一層促進することで、安定的な就職・キャリアアップにつなげていく。
- 協力企業・学校における活用事例を把握・分析の上、企業・学校における具体的活用方策の検討、これを踏まえたマニュアルの開発、ジョブ・カード様式等の改善を図る。



企業における活用

重点テーマ(案): 企業における非正規雇用労働者のキャリアアップに資するジョブ・カードの活用方策

<協力業界(企業)選定の考え方>

- ・キャリアアップが課題となり、業界検定等により業界内での能力評価ツールが存在する業界を対象として想定
- (例)「ホテル」「スーパーマーケット」

<主なジョブ・カード活用場面>

非正規社員として採用 → OJT等の能力開発 → 職務能力評価等 → 正社員での採用等

学校における活用

重点テーマ(案): 専門学校における学生の円滑な就職等に資するジョブ・カードの活用方策

<協力校選定の考え方>

- ・教育内容が専門分野に特定され、就職先職種が想定しやすく、ジョブ・カードを活用した能力評価・証明に親和性が高い「専門学校(専修学校専門課程)」数校を対象として想定

<主なジョブ・カード活用場面>

就職後のキャリアアップ → 教育課程の履修 → 教育成果の評価 → 円滑な就職の実現